

サイエンスアゴラ 2023 に参加しました (2023/11/18)

テーマ：関東大震災、インクルーシブ防災、平時の防災
会場：東京お台場・テレコムセンタービル
URL：<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2023/index.html>

2023年11月18日(土)～19日(日)、東京お台場のテレコムセンタービルで、科学技術振興機構(JST)主催の「サイエンスアゴラ2023」が開催されました。本イベントは、自然、社会、スポーツ・芸術、レジャー・エンタメ、社会課題の5つの項目を中心に、科学と社会を考える総合的なイベントです。この中で、世界防災フォーラム、東北大学災害科学国際研究所、防災・災害支援アップデート研究会が、「関東大震災から100年～防災におけるコレクティブインパクトの創出に向けて」と題したセッションを主催しました。当研究所の栗山進一所長(災害公衆衛生学分野)、小野裕一教授(2030国際防災アジェンダ推進オフィス)、朴慧晶助教(災害医療情報学分野)、そして公認心理師の高橋利恵子さん、医療的ケア者の当事者である高橋桃子さんと母親の高橋実和子さんがセッションに参加しました。

第1部の公開セッション(テーマ：平時のつながり)では、栗山所長、高橋桃子さん・実和子さんが登壇して、東日本大震災時の経験からメッセージを発信し、インクルーシブ防災を考える社会の必要性について議論しました。第2部のネットワークワークショップ(テーマ：平時のつながりの構築、連携アクション)では、当研究所を含む様々な機関からの参加者が、平時からインクルーシブ防災を考えておくことの重要性について議論しました。発災後の緊急支援から中長期の復興まで切れ目ない支援をどのようにするか、国際支援の在り方、ビジネスセクターからの最新の防災製品の紹介などを通して、新たな人的ネットワークを構築する機会となりました。特に「誰一人取り残されない」インクルーシブ防災について、課題や可能性を考えるよい機会となりました。



第1部 公開セッションの様子
(栗山所長、高橋桃子・実和子さん登壇)



第2部 ネットワーク
ワークショップの様子

文責：朴 慧晶(災害医療情報学分野)
小野裕一(2030国際防災アジェンダ推進オフィス)
栗山進一(所長、災害公衆衛生学分野)